



日独交流150周年
Jahre Freundschaft
Deutschland-Japan

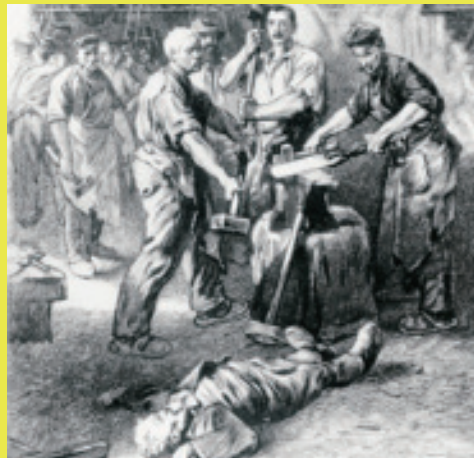
三重大学 日独友好記念企画 日独で考える21世紀の社会保障と医療

展示会

とき 6月6日（月）～6月14日（火）
9:30～17:00

※6月6日は14:00～17:00、6月14日は9:30～14:00

ところ 三翠ホール（ロビー・小ホール） *入場無料



労働災害は日常茶飯事であった。1885年に労災保険ができると、労働者や事業主の過失ではなく、「災害」そのものが判断基準となり、問題は解決した。



公的医療保険は、政府と医者たちその他との間でのさまざまな交渉の結果として制度化された。写真は、ベルリン市立児童ホームで医師による予防検診を受ける子どもたち、1930年。



1995年、社会保険の5本目の柱として、介護保険が全国民に導入された。保険料は労使が半額ずつ負担する。介護は人的なサービスであり続けるが、将来はそのためにもっと多くのお金が投入される

どなたもご参観できます

記念シンポジウム

「日独で考える21世紀の社会保障と医療」

とき 6月11日（土）

13:30～17:00（受付開始13:00）

ところ 三重大学人文学部視聴覚教室

（人文学部校舎3F）

講演

「現代日本の社会保障改革・医療改革の動向」

朝川知昭政策企画官（厚生労働省社会保障担当参事官室）

「ドイツにおける21世紀の社会保障と医療」

クラウス・アイルリッヒ参事官（ドイツ大使館社会厚生労働部長）

コメント

「生活構造からみた社会保障と医療」

深井英喜准教授（三重大学人文学部）

「暮らして見たドイツの社会保障と医療」

上村明講師（三重大学医学部附属病院臨床麻酔部）

司会：稲川武宣准教授（三重大学人文学部）



三重大学までの交通

■ 津駅前バスセンター④番乗場から

バス約10分、大学病院前下車。

■ 津駅からタクシー約10分。

■ 近鉄江戸橋駅から徒歩約15分。



三重大学

企画：人文学部 後援：ドイツ大使館、三重県、三重県教育委員会

（問い合わせ）〒514-8507 津市栗真町屋町1577

人文学部総務担当 TEL 059-231-9194

「凶像と記録資料で綴る
ドイツ社会云保障史」